

日本Androidの会福祉部設立と Androidが福祉の世界にもたら すインパクト

三輪佳子(科学技術ライター(フリーランス))
石川雅之(空間デザイナー、フードアナリスト)
加藤和哉(JIN SOFTWARE株式会社)
飯塚康至(ビジネス・ブレイクスルー大学)

福祉部 設立趣意書について

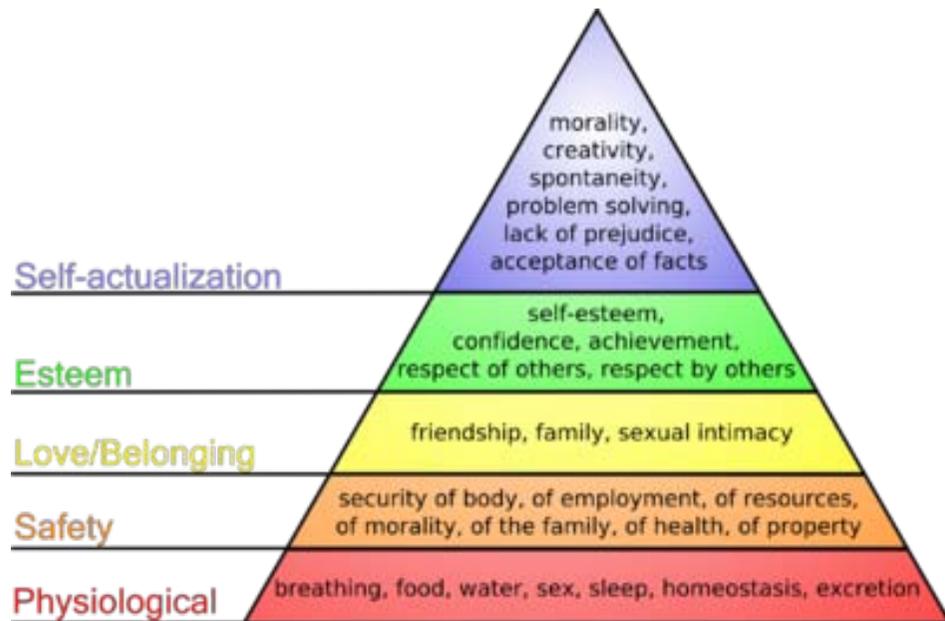
- 現状認識(1) 福祉の現状
- 現状認識(2) 福祉機器の現状
- 課題
- Androidの特性を活かして
- 目標

設立趣意書について

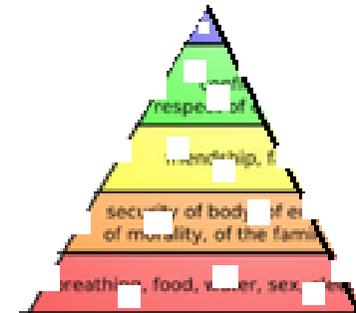
・現状認識(1) 福祉の現状

健全者 30代前半 平均年収398万円

障害者 平均年収152万円



(図: Wikipedia「自己実現理論」より)



福祉機器のニーズを持つ人々に十分な可処分所得がない

設立趣意書について

・現状認識(2) 福祉機器開発の現状

福祉機器開発の典型的な収益モデル

1. 完全なボランティア または 補助金・助成金による
→マンパワー・資金が得られなくなったら終わり
2. 一般市場向け製品の開発ノウハウを生かした福祉機器開発
3. 福祉機器開発のノウハウを生かした一般市場向け製品開発



→一般向けビジネスの一部で福祉
「余裕を福祉に割いてもらう」

設立趣意書について

・課題

福祉機器を欲する人に必要な機器が供給されない
→医療・健康への関心層も包括しうる機器開発・
新しい発想の機器開発の
機会を逃すことになる

情報格差が大きい

健常者と障害者が互いの認識を共有しているか？
「情報がなくて困る」を全員で補い合う仕組みは十分？

- Androidの特性を活かして

開発コストが低い・携帯可能

→年齢・性別・健常者と障害者 などの障壁を壊す

Cloud Computing というパラダイム

→関心と相互の助力を世界に開く

汎用性の高いデバイスがベース

→障壁なき情報共有・自由なコミュニケーション

→真のノーマライゼーションへ

・目標

いつか高齢者に・一時的にでも障害者になる
すべての人々のための情報機器開発
→社会に大きなインパクトを

設立趣意書(全文 <http://bit.ly/i7JhTa>)より

「私たち、日本Androidの会福祉部は、礼節と信義を重んじる責任ある市民の集まりとして、まず日本の福祉・医療機器開発にイノベーションをもたらし、障害者等を含む市民が健康で幸福な日常生活を享受する社会に少しずつでも近づくための力となります。さらに、世界の中の日本のイメージや役割を変革することにより、広くグローバルな社会へ「社会の目指すべき姿」の一つを示します。

私たちは、Androidと私たち自身が、以上を実現するポテンシャルを持つと確信しています。」

世話人紹介

丸山不二夫先生(早稲田大学客員教授)

三輪佳子(科学技術ライター(フリーランス))

石川雅之(空間デザイナー、フードアナリスト)

加藤和哉(JIN SOFTWARE株式会社)

飯塚康至(ビジネス・ブレイクスルー大学)

Androidの福祉・医療分野への 応用で、注目すべき特徴

- 携帯可能という特徴
- 万能のコントローラであるという特徴
 - これらの特徴によって、いつでもどこにでも持ち運びできる、福祉・医療機器を、安価に作り上げることが出来る
- コミュニケーションと情報共有の新しいツールという特徴
 - ノーマライゼーションの核心部分には、コミュニケーションと情報の共有がある。クラウドとクラウド・デバイスの時代は、ノーマライゼーションの新しい条件を作り出す。



医療分野におけるAndroidの適用について



福祉部ML

- <http://groups.google.com/group/androweal>